

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を掲示し、その内容が職員全体に浸透するよう教育を行っている。	事業所理念の温かく思いやりのある、家庭的な雰囲気づくりに努めています。目的は利用者様だけでなく職員も一緒に働く、家族の様な和のある関係であることが、皆が毎日、笑顔で過ごせて、ご利用者様の体調管理と、怪我のない支援が出来る源であることを、毎日のミーティングで共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	以前は、そば祭りや敬老会に呼んでもらい交流が出来ていたが、コロナウイルスが流行りだしてしまっからは、感染対策としてなかなか交流が出来ていない。	中山地区・内田地区に加入しており、2地区のお便りが毎月届き、GHからも2か月ごとにローズガーデン便りをお届けしています。地区の役員会に管理者が出席して、2024年度は以前の様に地区行事が開催されたら、参加したいと伝えたとの事です。中山に住む職員がおり、地区の研修会なども参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、認知症に対する理解ならびに当施設の取り組みを伝えることで、関わりを持っていただいている。(コロナウイルスの影響で現在は行っていない。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	現在感染対策の為、グループホーム内部のみで会議を行い、委員の方には書面にて報告をしている。地域ではどのような活動をしているのかなどアンケートをとり、グループホームでの活動に活かしている。1月には外部の委員の方にもグループホームに来てもらい、情報交換をする予定。	コロナ禍で書面開催が続いていましたが、2024年1月に、やっと対面開催が出来ました。地域の活動に反映できる様な、ローズカフェ開催や認知症予防の活動など、今後の活動に生かすことが出来る見通しです。推進会議構成員は9名、今年から家族代表を2名に増員します。3月も対面開催を予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	地域包括支援センターとは、運営推進会議を通じ連絡を取り合っている。感染対策として内部のみの会議の時には書面にて報告している。	松本市や地域包括センターとは連携をしていますが、コロナ禍で運営推進会議の書面開催が続いた状況でした。今年1月に対面開催にやっと切り替えられ、今後は感染対策に留意しながら、対面開催で密に連携を図る見通しを管理者と責任者から伺いました。また、法人の施設長が認知症専門医であることで地域交流の要にしたいと伺いました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束は行っていない。定期的な研修で知識の習得に努めている。(身体拘束廃止委員会にて)現在コロナウイルスの影響で再開できていない。	身体拘束排除委員会が同法人にあり、研修が実施されています。グループホーム会議で月1回は、認知症や健康体操などを議題にして、情報共有や会議録の回覧をしています。管理者が安全衛生やリスクマネジメントの有資格者であり、研修に力を入れています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会があり、定期的開催され勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については、職員の学ぶ機会を持ち、研修会への参加も出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、老健事務部門で行っているが、疑問や不安のあるところは理解して頂けるよう、いつでも説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や電話にて、定期的に現状を伝えるとともに、要望も聞き入れ運営に反映させている。	ご利用者様が笑顔で、怪我がない様に、また体調管理に努めています。何か変化があったらすぐ連絡をする、月1回の定期受診時にご家族に報告して、ご要望を聞いています。外出希望にはドライブの機会を設けたり、GH周囲の桜並木や雑木林へ散歩に出たりしています。運営推進会議は家族代表を2名にしました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	併設施設との定例会議やグループホーム内の職員会議にて話し合いの機会を設け、検討されている。	毎月、老健での定例会議に出席し、意見を述べています。組織の運営方針、加算、課題や人事に関すること、報告など議事録は回覧し共有しています。職員の悩みをいつでも聞ける体制を取っており、一緒に働く仲間としてお互いにフォローが出来る関係を大切にしているため、職員の定着率が高いと管理者から伺いました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を導入し、職員のやる気や能力などを給与の査定に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修に力を入れており、委員会ややりがい検討会などで実力向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	長野県の同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人に寄り添い、困っていることや不安を感じていることがあれば耳を傾けて、関係を築いていく中で、安心して生活していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的にご家族にご本人の様子など伝える中で、ご家族の不安や要望にも耳を傾けて、より良い関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とご家族との話し合いの中で、望んでいる事は何か、どのようなサービスを提供出来るのか見極め、対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	談話の時間にはコミュニケーションを図りながら、仲間としての関係を築いている。家事仕事ややりたい事など、一緒に出来るように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	受診報告時や面会時など、ご本人の様子や今後についてお伝えし、ご家族と共に支援できるような体制を取っている。コロナウイルスが落ち着いたら誕生会などへの参加についても再開したい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出行事や受診の行き帰りなどの際、見慣れた風景を見ながら、これまでの生活歴などの会話を行うことで、馴染みの場所との関係が途切れないように努めている。	法人独自のアセスメントシートがあり、仕事、交友関係、嗜好や趣味など生活歴が基本にあります。老健での手芸教室に通う、自販機でパンやジュースを購入するなど、また月毎の季節感があるカレンダーを作るなどしています。出張の美容院の利用があります。コロナ前は衣類や希望の買い物などが出来ていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブル単位で良好な人間関係が築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご家族より、近況報告があった時には、対面または電話にて相談や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中からニーズを見つけ、レクリエーションやリフレッシュ項目に入れている。	ご利用者様毎に、生活歴を大切にしてお応えをしています。認知が進まない様に会話をしながら散歩をする、脳トレや回想法、カラオケ、体操や風船バレー、お手紙を書く、壁飾りを作るなどしています。リビングウィルで意思決定や自己選択などと、やりたいことを言ってもらい、計画を立てるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	テレビや新聞で地域の行事などの情報を見聞きしながら、一人ひとりの昔の思い出話を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご様子を温度版に記入し、心身の変化についても把握できるようにしている。バイタルや排泄リズムも記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	サービス担当者会議を通じて、現状のニーズや心身の状態に沿ったケアプランを立案している。	現在は認知症の理解も進歩して、ずいぶん変わってきました。新しいご利用者様がGHIになじむ様に、関係職員・利用者ご家族と、計画・モニタリング・カンファレンスなど状況を話し合っています。昼ミーティングでカンファレンスと課題の検討をして、1か月に一度は担当者会議で見直しをする、3か月毎に介護計画を更新しています。書類で確認いたしました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌や温度版に記録を残し、また昼のカンファレンスを通じて職員間の情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人に寄り添い、コミュニケーションをとる中で、悩みや希望を本人の様子から読み取るように心掛け、ニーズに対応している。また、ご家族とは定期的に連絡を取り合う中で、信頼を築けるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	感染対策のため、外部の方との交流があまり出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的を受診を行っている。受診の前には確認する事項をまとめて、本人や家族の希望、悩みなど、漏れのないように努めている。受診後は必ずご家族に結果を報告している。	医療法人が母体で、受診の際は職員と、ご家族も付き添うことが出来ています。主治医へ、ご利用者の状況・経過など受診票に内容を記載して受診しています。医師からの診察や処置、指示内容は書面で全職員が共有し、ご家族にも報告しています。皮膚科・眼科はご家族か、または職員が付き添って受診しています。老健には看護師も常勤し、毎日訪問する協力体制が出来ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりの中でとらえた情報は、介護職員間で共有し、いつもと違う様子に気付けば看護職員に相談している。特別変わったところがない日でも、1日に1回は看護師に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは常に連携をとっているので、情報交換や相談がいつでも出来るようになっていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りについては、医師から家族へ話をしていたり、説明のもと行われており、マニュアルも作成し対応できるようになっている。	重度化した場合の指針とマニュアルがあり、リビングウィルの元、医療とケアを利用者が選択できる取り組みがされています。ご利用者・ご家庭、主治医と連携を図り、身体的・医療的な説明と指導を、職員とご家族が共に受けます。隣接する老健の看護師が毎日訪問して、病院への入院も対応でき情報を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には、併設施設の看護師がすぐに対応してくれている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	老健と合同で防災訓練を行い、職員間でも会議で話し合いをしている。災害に備えて発電機も準備した。	地域との防災協定を結んでいます。備蓄は隣接の老健に確保しています。地震・水害想定訓練を地元消防署の立ち会いで、5月と11月に実施しました。グループホームは坂がある立地上、雨水の排水も注意し、自家発電機も設置しました。各連携機関への通報・職員連絡網など、書類も確認致しました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の意思を尊重し、人生の先輩として、日々プライバシーや言葉づかいに気を付けてながら接している。	職員は入職時に人権と接遇研修を受けています。リビングウィルで、ご本人の意思と選択する権利を尊重し、自分らしく尊厳をもって生活することが周知されています。態度・言葉使いなど、ご利用者様だけでなく、職員同士も気を付けて、性格の違い、適材適所などに管理者が気を配っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の日常生活の中で本人の思いや希望を出来る限り叶えられるよう、本人の意思決定を重んじながら生活出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の希望を優先し、無理強いはせず、ゆっくりと過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の意見を伺い、散髪出来ている。行事や外出、受診など、その日の目的に合った服装が選べるようお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際にはメニューを伝え、楽しく食事が出来るよう支援している。食後にテーブルを拭いていただいたりしている。	管理栄養士が1週間ごとに、季節を取り入れた献立を作り、隣接の老健で調理されて、温かいままで直ぐ運ばれてきて、今日の献立が放送されます。寝たきりに近い全介助の方も、嚥下に留意しホールでゆっくりと食べて頂きながら、認知が進まない様に健康管理に気を配っています。おやつ作りはご利用者様と一緒に作ることも有ります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によるカロリー計算をした上で、メニューを作成してもらい食事の提供をしている。水分摂取も見守りや声掛けにて、しっかりと一日量が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は介助にて対応。歯の隙間に汚れかすがある人は歯間ブラシを使用している。夕食後、義歯は入れ歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のタイミングや排泄パターンを記録し、パットの種類やトイレ誘導のタイミングをカンファレンスなどで話し合い実施している。また、状況が変化した場合にも話し合って状況に応じた支援をしている。	温度版を使用してバイタル・排泄・ケア記録・食事・服薬など一括で記録、24時間シートで排泄パターンの把握をし、お声掛けしています。昼ミーティングはカンファレンスと同様、担当者に連絡して状況に応じ話し合っています。体操・ヨーグルトなど排泄の調整をしています。老健の看護師・薬剤師との連携も摂れています。記録を確認しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	おやつ時にカスピ海ヨーグルトを提供したり、十分な水分摂取や運動などで便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ご本人の体調や希望により、入浴時間帯も配慮している。季節によってはバラ風呂やゆず湯を楽しんでいる。	1週間に少なくとも2回は入浴が出来るように、ご利用者様の希望を入れていきます。ハーブ湯やバラ風呂・ゆず湯など季節感を大切にしています。寝たきりに近い方は老健の入浴設備を使用し、安全・安心な入浴が出来るようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の体調や様子によって居室で休んでもらったり、眠れない時などはホールで過ごし、たたみスペースでゆっくりと休まれるなど個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の指導のもと、服薬管理を行っている。職員は薬情などから薬の内容や副作用などを理解し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	老健行事に参加し、歌や踊りなどを楽しんでいる。グループホームでも季節の行事を大切に、日々楽しく過ごせるよう努めている。嗜好品も買いに行けるようになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染対策により現在は十分に行えていない。ドライブにて車窓から景色を楽しむ外出支援など、制限がある中で少しでも楽しんでいただけるよう考えている。	コロナ前は外出委員会で計画を立てていました。年間の行事予定はお花見・鯉のぼり・畑づくり・薔薇の花見・ウッドデッキでのアフタヌーンティー・七夕・夏祭り・秋のローズ祭・敬老会・ミニ運動会・紅葉見物ドライブ・クリスマス会・新年会・節分・雛祭りなど、出来るだけ外でランチやお茶が出来るようにしています。地区の敬老会や行事は、開催になれば、参加希望を申し込んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症状により全て1人での管理は困難であるが、ご家族よりお金を預かり、ご本人の欲しい物が買えるよう対応している。自販機へ飲み物やお菓子を一緒に買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話でのやり取りは自由に出来るよう支援している。手紙でのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールでは花を飾ったり、季節ごとに壁飾りを作ったりして飾っている。テレビなどの音量や明るさ、室温は常に気かけ、居心地よく過ごせるように工夫している。	広いホールの大きな窓からは、桜並木や雑木林が、談話室からは薔薇の生垣が見え、観葉植物が花を咲かせて、季節の移り変わりが感じられる環境です。理念の実践の、笑顔で過ごせるホールは室温は25℃、日当たりや照明、TVの音量など気にかけて調整しています。8畳ほどの量の部分では、落ち着かない方に添い寝することもできます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルやイスが何カ所かに分かれて置いてあるので、談話室でゆっくり過ごす人やホールで気の合った方同士、話が出来よう席を隣にしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	枕やクッションはご本人の好みの物があれば持って来てもらったり、写真や馴染みのある物を用意してもらい、ご本人の落ち着ける居場所になるよう工夫している。	8畳間ほどのフローリングの個室は入居に際し、低床ベッド、普通のベッド、車いす、ポータブルトイレなど無償で借りられます。個室ドアには花が描かれ、備え付けクローゼットも大きく、必要なものは全部収納できます。家で使っていた寝具、お気に入りの家具や好きなものを飾れるスペースは充分あり、退院後の入居もすぐに対応できる環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やホールが広いので、歩行訓練やリハビリテーションを行うスペースがあるので、見守りを徹底し、自由に行動や生活が出来るよう配慮している。		